

運動のバトンを受け取りつなぐ青プロ！

自治労連中央執行委員
蛭名 孝宏

青年がつながりを広げ、深め、学び、一緒に未来を考える「青プロ」

自治労連は、5年を節目に1994年「JJジャンボリーinトナム」、2009年自治労連結成20周年記念事業「おきプロ」、2014年25周年記念事業「おきプロNEXT」に多くの青年が学び、交流し、時代をつないできました。住民のためにいい仕事がしたいと思っている青年たちが、自分たちの仕事について考え、話し合える場であり、そのことが自治労連の運動の根幹ともいえる民主的自治体労働者論につながっていく場・担い手として育っていく場だと考えています。

それらの集会でつながりをつくった青年、そしてこれから出会う青年が、身近なブロックから（全国7つのブロックでそれぞれの開催）さらにつながりを広げ、深め、学び、一緒に未来を考える集会、それが、自治労連30周年記念事業として行われる「青年未来づくりプロジェクト（略称『青プロ』）」です。



1994年北海道で行われた「JJジャンボリーinトナム」



2009年「おきプロ」に全国から1267人が参加



2014年「おきプロNEXT」には1533人が参加

統一テーマは「住民のため、自分のためにいい仕事とは何だろう」

2018年12月2日に自治労連本部において「青プロ」第1回全国実行委員会をスタートさせ、方針、今後の取り組みについて検討をし、憲法を守りいかなる社会の構築をすすめるためにも、自治体労働運動と自治労連30年の歴史の到達点を次世代につなげ、さらなる組織強化・拡大に貢献する（30周年記念事

業)ことをめざし)以下を念頭に取り組むこととしました。

(1) 全国の仲間と交流を深め、ブロック、地方組織、単組での青年(部)活動の活性化をめざす。青年部未確立のブロック、地方組織や単組での青年部の結成(再建)をめざす。

(2) 青年未来づくりプロジェクト(自治労連30周年記念事業)へ向けての取り組みなどを通じて、青年の結集することの大切さを感じ、職種別の青年たちも含め青年が多様につながり合い輪を広げ、仲間を増やす。

(3) 全国実行委員会やブロック実行委員会で、青年(部)と基本組織、女性(部)および幅広い世代の組合員が一体となって、次世代育成の観点で継続した取り組みを行う。

(4) 民主的自治体労働者論をはじめとして、様々なことについて学び、ふれあい、交流することで、情勢などに問題意識をもち、自治体労働者としてのあり方を学ぶ。

2019年6月30日の第2回全国実行委員会において、「青プロ」の統一テーマを「住民のため、自分のためにいい仕事とは何だろう」に決定し、あわせてサブタイトルを「民主的自治体労働者論の継承・発展」と決めました。

時代は変われど、働く場所は違えど、脈々と受け継がれてきた自治労連運動の精神は、青年のDNAとして、しっかり組みこまれています。

青プロのロゴ



キャラクター(あおちゃん)

青年部全国委員会に置いて決定したロゴは虹の7色をブロックにたとえ、雨上がりにできる虹がひかり輝くイメージです。またキャラクターの名前は「あおちゃん」青プロの青、体が7つのブロック数、あお(青)虫から学習・交流・経験を経ていずれ成虫へと成長していくことをイメージしています。



青プロのポスター

